

1 川越市の概況

川越市は、大正11年12月1日に埼玉県で最初に市制を施行し、昭和30年に隣接する9村と合併し現在の市域となり、平成15年には県内で初めて中核市に移行しました。都心からは30km圏内に位置しており、県南西部地域における産業・経済・文化・観光などの中心都市として発展を続けています。

市内には、東武東上線、西武新宿線、JRの複数の駅があり、交通の利便性が高く、中心市街地などのにぎわいを見せる商業、県内有数の出荷額を誇る工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光業など多面性を有しながら、バランスのとれた産業構造となっております。

本市は、古くから城下町として発展し、江戸時代には江戸を守る要衝として重視され、歴代藩主には大老、老中といった有力大名も配されてきました。また、市内を流れる新河岸川を利用した舟運により、江戸へ物資を運ぶことで経済面に加え、様々な文化が伝わり、『小江戸』と呼ばれるほどに発展いたしました。

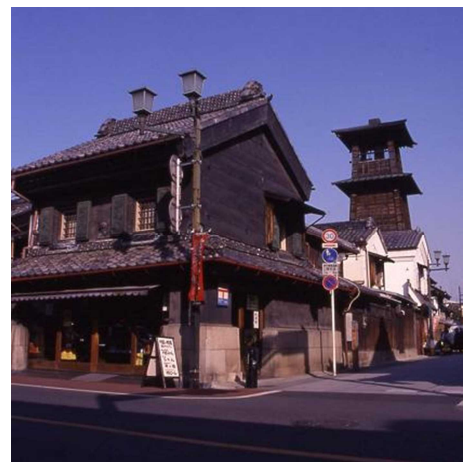
川越の歴史的景観を代表する「一番街」の重厚な蔵づくりを連ねる町並みは、江戸時代、物資の集散地として栄え、商業によって発展してきたことを窺わせており、平成11年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

川越のシンボル「時の鐘」は、江戸幕府が江戸市中で鐘を鳴らし、時を報じたものを当時の川越藩主 酒井忠勝が川越城下でも始めたものといわれております。

なお、現在の「時の鐘」は明治26年の川越大火で焼失したため、翌年に再建されたものですが、その音色は平成8年、環境庁（現・環境省）の『残したい日本の音風景100選』に認定されました。平成29年1月に耐震化工事が完了し、これからも寛永の創建時と変わらぬ時を告げていきます。

現在、川越市役所が建っている場所は、かつての川越城大手門跡で、庁舎前には、川越城築城の功労者である太田道灌公の銅像と川越城図があります。

また、川越城本丸御殿は、日本100名城に選定され、城下町川越のシンボルとして今も堂々とした姿を見せています。



蔵づくりの町並みと時の鐘

人口については、昭和40年代には10年間で約177%という急増をみましたが、その後は安定し、ここ数年は微増傾向を示している中、令和元年度末現在の人口は353,456人、世帯数は160,831世帯となっております。少子高齢化の急速な進行による人口構造の変化は、本市においても例外ではなく、近年、全人口のおよそ27%が65歳以上で占められています。



川越市庁舎

社会状況の変化を踏まえ、本市では、平成28年度から「第四次川越市総合計画」のもと、『人がつながり、魅力があふれ、だれもが住み続けたいまち 川越』を目指しております。保健医療については、「第二次川越市保健医療計画」に基づき、住み慣れた地域で、一人ひとりが健康でいきいきと安心して暮らせるまちになるよう、地域の現状に合った保健医療体制の整備・充実を図ってまいります。

また、令和4年には、本市は市制施行100周年を迎えます。「時をつなぐ 未来をつむぐまち 川越」のキャッチフレーズのもと、100周年の祝典や記念事業が行われる予定です。

市制施行年月日	大正11年12月1日
市域の面積	109.13km ²
人口(令和2年3月末)	353,456人
世帯数(令和2年3月末)	160,831世帯



川越市マスコットキャラクター
埼玉県けんこう大使
ときも